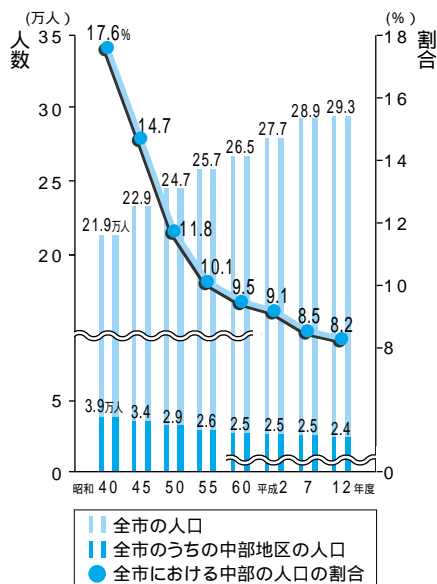


住みたくなくなる、 住み続けたくなくなるままち

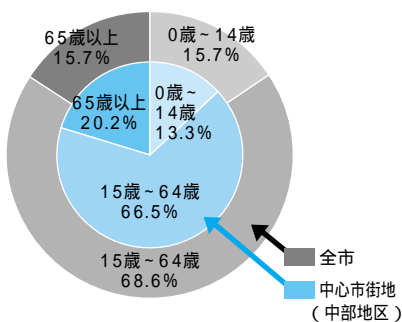
特集
中心市街地での
居住の促進



グラフ
全市と中部地区の人口



グラフ
年齢層別の人口の割合



中心市街地に住む人を年齢別で見ると、全市平均と比べて子供の割合が少なく、高齢者の割合が高くなっています(グラフ)。市では、中部地区のマンション(居住世帯)一、二(九世帯)を対象に、「今後の居住の意向」について、ア

減少した中心市街地の人口 著しい少子高齢化の傾向

既成市街地の周辺部を中心に人口増加が見られ、市全体の人口は増え続けています。しかし、一方で、

昭和四十年には四万人弱の人口があった中心市街地(中部地区)は、逆に減り続けています。ここ数年は、経済情勢により郊外団地開発が沈静化する一方で、再開発や民間マンションの建設により、一部人口が増加している地域もありますが、当時の六割の人口となつていきます(グラフ)。

中心市街地は、さまざまな施設が整い、交通も便利です。そこは商業の中心地であり、娯楽や文化・情報発信や交流のコミュニケーションセンターとしての役割も担ってきました。しかし、中心市街地では年々住む人が減少し、活気がなくなつてきています。そこで市では、中心市街地に住む人を増やし、活気を取り戻すよう取り組んでいます。



商業にとっても居住者は大事な顧客

ンケート調査回収率四一%)を実施しました。今後も「中心市街地に住み続けたいかどうか」の設問に対して、回答世帯の約七割が「そう思う」と回答しましたが、約三割の世帯は、「そうは思わない」と回答しています。中心市街地は、特に生活環境から見ても、必ずしもみんなが住み続けたいまちと感じているとは言えない状況もつかえます。(アンケート調査の結果は、都市整備課のホームページに掲載。アドレスは、<http://www.city.yokkaichi.mie.jp/toshiseibi>)

中心市街地の衰退は市全体の魅力の低下

中心市街地は、商業の中心地というだけでなく、市の歴史や風土、文化の源であり、言わば、市民にとって心のよりどころで、四日市の「顔」というべき所です。



市の補助制度を利用した民間によるマンションの建設現場

ここが衰退することは、市そのものの魅力が低下することになり、ふるさと意識が薄れていきます。また、これまでに下水道、道路などの都市基盤や公共施設を整備してきましたが、これらを十分に活用することも大切です。さらに、今後、中心市街地に近く、四日市の貴重な資産である「港」と連動したまちづくりを進めていくためにも、中心市街地の活性化は不可欠となってきます。

さまざまな住宅の供給で住む人の増加を

そこに住む人を増やすために、道路、公園や緑地などの基盤整備を進めるとともに、若者や高齢者、ファミリーなど、さまざまな居住者に対応した多様な住宅の供給を図ることが必要です。

そのため、市では、中心市街地における敷地の共同化による建て替えや民間の住宅供給の促進を図りながら、居住者にとって住みやすくなるような施策に取り組んでいきたいと考えています。

共同住宅で住む人が増え、まちのにぎわいも戻りました

中川政之さん六五 沖の島町「グラントメゾン沖の島自治会長」



昔はにぎやかな商店街でしたが、次第に人通りが少なくなり、空き店舗も出てきました。そこで、隣同士八軒の地権者が協力して、中心市街地活性化のための市の支援を受け、平成六年に十四階建ての店舗付き共同住宅を建てました。この共同住宅には九十六世帯が入居し、住む人が大幅に増えました。それに伴い周辺の空き店舗に新しい店が入るなど、まち全体が生き生きとしてきました。



地域8軒の協力で建てられた共同住宅

現在進めている住宅供給などの促進施策の例

多様な住まい方に対応した住宅供給の促進

市街地再開発事業や特定優良賃貸住宅制度による公的支援などで民間住宅の促進を図る

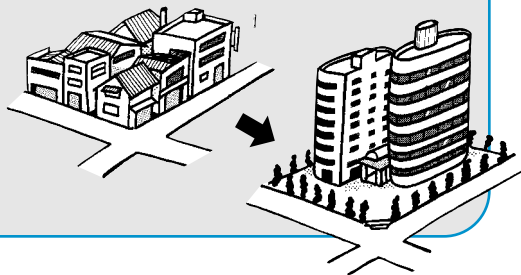
特定優良賃貸住宅制度を使って建てられた賃貸住宅



共同化による建て替えの促進

お隣り同士が狭小な土地を出し合って共同化による建て替えを行うための、計画・立案に対して支援を行い、共同化の促進を図る(四日市市共同建替等助成制度)

小さな敷地が集まり共同化



中心市街地での住宅取得に対する支援施策

住宅金融公庫と連携した融資の優遇策により、住宅取得を推進する(都市再生融資)

